

ご支援・ご入会のご案内

パシフィカ・ルネサンスは、長期的に安定した活動を行うために、財政的な自立を目指して収益事業の確立を模索しておりますが、公的な助成や収益事業の展開が難しい分野・地域であり、会員の年会費や任意の寄付は重要な財源の一つです。

当 NPO の趣旨にご賛同いただける皆様には、是非ともご支援いただきますようお願い申し上げます。

会員種別

正会員	当法人の目的に賛同し、入会した個人及び団体。総会に出席（できない場合は委任状の提出）の義務があり、法人の運営・活動に参加する。
賛助会員	当法人の事業を賛助するために入会した個人。総会には出席できず、法人の運営・活動には参加しないが、活動を資金的に援助する。
法人会員	当法人の事業を賛助するために入会した団体

年会費（事業年度 4 月 1 日～3 月 31 日の 1 年分）

正会員	5000 円
賛助会員	5000 円
法人会員	20000 円

会員特典

正会員	ニュースレターの送付。イベントへの優先的な参加。
賛助会員	ニュースレターの送付。イベントへの優先的な参加。
法人会員	ニュースレターの送付。イベントへの優先的な参加。ニュースレター・ホームページでの貴法人名の紹介と貴法人ホームページへのリンク。

ご入会・ご賛同のお問い合わせ

pasifika.renaissance@gmail.com までご連絡下さい。

団体概要

沿革

- 1990 年代～：メンバーが個別に活動を行う。
- 2013 年 2 月：設立に向けての話し合いを開始。
- 2014 年 5 月：設立発起人会を開催。Facebook ページでの情報発信を開始。
- 2014 年 6 月：設立総会を開催。
- 2014 年 9 月：NPO 法人として成立。

役員

- 代表理事：長岡拓也（オークランド大学名誉研究員）
- 副代表理事：齋藤弘之（安城市教育委員会文化振興課）
- 理事：関根久雄（筑波大学教授）
- 監事：井上郁子（団体職員）

顧問

- 川嶋正和（NPO 法人ミクロネシア振興協会事務局長）
- 小林泉（大阪学院大学教授）
- 白川千尋（大阪大学准教授）
- 須藤健一（国立民族学博物館館長）
- 竹川大介（北九州市立大学教授）

Facebook ページ

<http://www.facebook.com/PashifikaRenaissance>



NPO 法人パシフィカ・ルネサンス

Pasifika Renaissance

2014 年 9 月 NPO 法人認証



『今、過去と未来をつなぐ』

我々は…過去から受け継いできた伝統を保持し、
かつ将来の可能性を保護しようとする（中略）
多数の島嶼より成る国家を建設するため、我々
は、我々の文化の多様性を尊重する
（ミクロネシア連邦憲法前文より）

パシフィカ・ルネサンスは、オセアニア島嶼国の伝統文化に新しい生命を与え、現地コミュニティに活力を与えるため、文化・歴史遺産を保存し、振興することに取り組む NPO 法人です。パシフィカ・ルネサンスという名前は、「太平洋の島々/島の人々の伝統文化の再生・活性化」という意味です。



設立趣旨・目的

太平洋の島嶼諸国において、戦後の急速な近代化はライフスタイルの変化を引き起こし、数百年・数千年にわたって受け継がれてきた民族の叡智である伝統文化を衰退へと追いやりました。また伝統的な知識も適切に記録されることなく失われつつあり、現地住民がアクセスできる彼らの島の文化や歴史に関する情報も非常に限られています。私達は、彼らが自分達の文化や歴史について学ぶことが、心のよりどころとなる自民族に対する誇りやアイデンティティの醸成・強化、さらには自分達の伝統に基づいた現在そして未来の文化の創造へつなぐと考えます。

こうした社会の実現に向けて、パシフィカ・ルネサンスは、オセアニアの現地住民による伝統文化の復興・再生（ルネサンス）に貢献するために、文化や歴史の記録、調査、教育での活用に取り組むことを目的とします。また海外で保管されているさまざまな資料や研究成果などの情報の共有を図ります。さらにめばしい産業のないオセアニア島嶼国において、観光業は大きな可能性を持っており、重要な観光資源となりうる有形・無形文化遺産の保存に向けて啓発活動を行うとともに、これらのカルチュラル・ツーリズム（文化観光）での活用を目指します。

こうした現地での活動に加えて、日本とオセアニア島嶼国の文化交流や友好関係の促進を図るとともに、日本側でパシフィカ・ルネサンスの活動に携わったり、そのサービスを受けたりする人々の内面に小さなルネサンスのような変化を起こすお手伝いができればと考えます。



事業内容

- ① オセアニアの伝統文化・歴史・文化遺産に関する記録・調査・教育事業
 - 離島の昔話の記録・教育での活用



- フェイスブック・ページを利用した伝統文化・歴史に関する情報の発信



- 離島の伝統文化・歴史に関するウェブサイトの製作
- 歴史・学術資料の現地コミュニティへの共有化
- 学校教育における社会科の教材の作成

- ② オセアニアの関連機関・団体への技術協力事業
 - ナンマドール（ポーンペイ島）・石貨遺跡（ヤップ島）の世界遺産登録へ向けての技術協力



- ③ オセアニアの観光及び日本との交流・友好を促進する事業

- カルチュラル・ツーリズムの促進



- 伝統工芸の商品化



- ④ その他目的を達成するために必要な事業

